

スポーツ・武道実践科学系

氏名 たけ なか けんたろう 竹中健太郎 准教授



主な研究テーマ

□「剣道における実践的技術研究」

剣道の歴史文化，特性を踏まえた，現代剣道の効果的な指導法及び稽古法についての実践的な研究。

平成30年度の研究内容とその成果

武道の一つである剣道は，武術として日本刀での剣術から，時代の変遷を経て竹刀，防具の開発により竹刀で打突し合うに至りました。近年競技性の著しい発展が見られるなかで，歴史ある武道としての文化性や伝統性を内包しながら歩み進んでいます。

これまで技術的な課題の克服や効率的な指導法など，競技者と指導者の両面の立場から競技力向上に向けた技術面に関する実践的な研究をすすめてきました。30年度は，足構えにおける左足踵に着目し，その離床の重要性について検討しました。詳細はスポーツパフォーマンス研究をご参照ください。

これからの研究の展望

これまでに実施してきた研究と同様に，指導現場や剣道実践者にダイレクトに還元できる研究を行っていきたいと考えています。特に，初心者における剣道の効率的な指導法や，鍛錬者における打突動作の悪癖を修正するための工夫について実践的な検証を行い，その有用性について提示したい

と思います。

一方で，本学は武道課程を有する体育大学ですので，我々は技術向上への研究や取り組みと並行して，武道の特性を踏まえた本質的な剣道を次世代に継承する使命も忘れてはならない立場にあります。昨今の剣道は，国内はもちろん，世界規模での剣道大会（試合）の隆盛による競技化が進む一方で，武道としての剣道の特性が失われることへの懸念の声が続きます。したがって，長期的な視点においては，技術的研究と並行し，剣道の歴史的背景や精神性を踏まえた剣道の本質的な修練（上達論）と現代剣道の技術（勝負論）との融合，連結を示唆するための研究をすすめ，伝統文化としての剣道の普及と伝承に貢献していきたいと考えています。